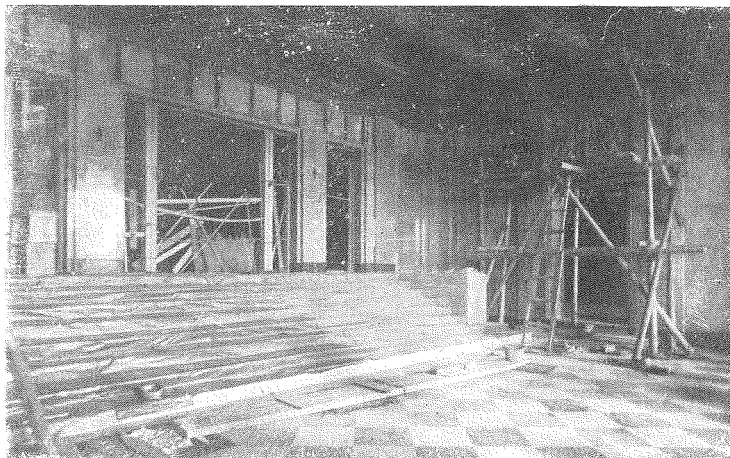


新 議 事 堂 建



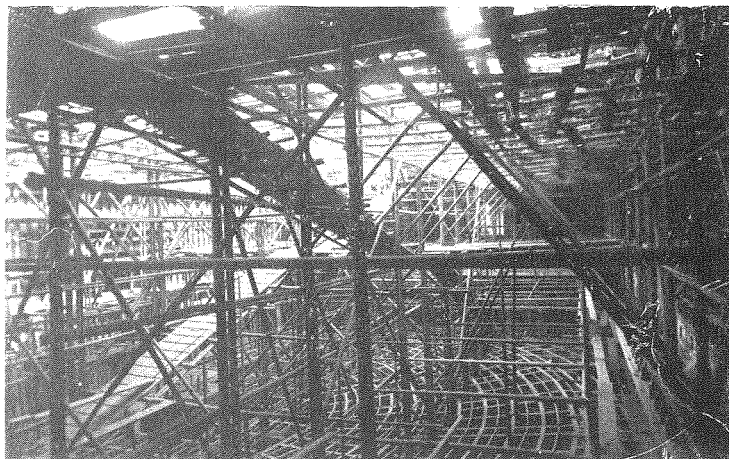
大正九年一月地鎮祭を舉行し、同年六月鋤入式があつて土工に着手して以來、茲に十有一年、その設計に、その施工方法に、またその材料に、その他あらゆる點で現代我國建築の粹を蒐め、銳意工事中であつた新議事堂工事も、昭和五年中に外部の足場が取拂はれ、本號表紙に示す様な、いとも莊大な姿を永田町に現した。

新議事堂本館は建坪3,750坪、延15,000坪で、正面の長さが約二町、奥行約一町ある。此議院が出来上るのは昭和10年度の豫定であるが、主務省たる大藏省營繕管財局工務課の技師肥塚氏の話によれば、昭和8年度には竣功するだらうとの事、出来上つた曉には、建築様式に於て、院内設備に於てまさに歐米各國の議院に比べ遙かに誇るべきものとなる



上) 新議事堂衆議院の玄関車寄。十一月二十九日の撮影にして、圓柱及床面防護村に包まれ、日下天井工事中。
中) 新議事堂貴族院玄関。床面大理石張付を了したるところ。

下) 新議事堂貴族院議場。二階の傍聴席より撮影せるものにして日下内部雜作中。此處に500の議員席がおかれる。衆議院も亦同じ。昭和五年十一月十八日撮影。



築 工 事 グ ラ フ

う。

中央塔屋の頂きは海拔 304 尺で之と高さを競ひ得るものは、東京市内には先づない。その屋上からは東南には房總半島、北に向つて筑波山、秋又の連山、西には丹澤山塊を越えて富士が見られ、東京市街の大半を展望出来る。

とにかく日本はおろか世界にも多くはない工事なので、當局者の苦心はさこそ。一片の窓硝子にも満全の注意が拂はれ、少しでも質の悪いものは「要取換」の大文字が書かれてゐる。

此議院建築に要する費用は總額 200 萬圓で、内事務費と附帯工事費を除いた、本館建築費だけが 1,721 萬餘圓である。(本誌第二卷第一號参照)

(上) 新議事堂中央廣間。十一月廿九日の撮影にして目下内部雜作工事中。天井は塔屋工事の假天井なり。

(下左) 新議事堂中央塔屋八階の内部工事の状況。十一月二十九日。

(下右) 新議事堂塔屋最頂部展望階内部本號表誌の中央寫眞参照。

